

情報 I
701 新編情報 I

情報Iの目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。
--------	---

レポート No	教科書ページ	レッスン	評価の3観点			学習のポイント
			知識・技能 A	思考・判断・表現 B	主体的に学習に取り組む態度 C	
No.1	P5～P32	1章 情報で問題を解決する	・情報やメディアの特性を理解している。 ・問題解決のプロセスを理解している。 ・発想法に共通する基本的な考え方を理解している。 ・インターネットを利用する際に守るべき決まり事について理解している。	・伝える情報に対して適切な表現メディアを判断することができる。 ・身近な問題について、問題解決のプロセスを当てはめて考えることができる。 ・発想法を使って表現することができる。	・情報やメディアの特性を理解しようとしている。 ・身近な問題について、問題解決のプロセスを当てはめようとしている。 ・発想法を活用しようとしている。 ・情報モラルを身につけようとしている。	・情報という用語の意味を理解する。 ・メディアという言葉の意味と、3つのメディアについて理解する。 ・メディアリテラシーが何か、なぜ必要なのかを理解する。 ・問題解決の5つの段階を理解する。
No.2	P33～P60	2章 情報を伝える	・コミュニケーション手段の変化について理解している。 ・ネットコミュニケーションの特性を理解している。 ・デジタルとアナログの違いを理解している。 ・数値のデジタル化の方法を理解している。	・スマートフォンを使う場面を思い浮かべて、スマートフォンがない時代はどうしていたか調査して考えることができる。 ・状況に応じて適切なメディアを選択することができる。	・コミュニケーション手段と社会の変化の関係性について考えようとしている。 ・ネットコミュニケーションの特性を理解してメディアを活用しようとしている。 ・情報のデジタル化の関係性について考えようとしている。	・ネットコミュニケーションのメリットとデメリットを理解する。 ・実名の特徴と匿名の特徴を理解する。 ・デジタルとアナログの違いを理解する。 ・デジタルの特徴を理解する。
No.3	P61～P88	3章 コンピュータを活用する	・コンピュータの仕組みを理解している。 ・ソフトウェアの働きを理解している。 ・論理回路について理解している。 ・アルゴリズムを表現する方法を理解している。 ・プログラムの順次構造を理解している。	・身の回りにあるコンピュータが入っている製品を考えることができる。 ・プログラミング言語の種類を考えることができる。 ・論理回路を真理値表に表現することができる。 ・アルゴリズムを考えることができる。 ・プログラムに表現することができる。	・コンピュータの仕組みに興味を持とうとしている。 ・プログラムの動作の仕組みに興味を持とうとしている。 ・論理回路を真理値表で表そうとしている。 ・アルゴリズムを考えようとしている。 ・プログラミングをしようとしている。	・コンピュータを構成する五大装置について、具体的な名称と機能を理解しているか。 ・基本ソフトウェアと応用ソフトウェアの関係を理解できているか。 ・3つの基本論理回路での出力を理解できているか。

No.4	P89～P116	4章 データを活用する	・インターネット接続について理解している。 ・インターネットの接続の仕組みについて理解している。 ・サーバとクライアントの意味と役割を理解している。 ・インターネット上のサービスの仕組みを理解している。	・インターネットの今後の利用について考えることができる。 ・プロトコルによってどのように通信しているかを考えることができる。 ・サーバとクライアントの役割について考えようとしている。 ・インターネット上のサービスの仕組みについて考えようとしている。	・ネットワークの仕組みについて興味を持っている。 ・コンピュータに割り振られているIPアドレスをどのように調べたらいいか考えようとしている。 ・サーバとクライアントの役割について考えようとしている。	・情報通信ネットワークで用いる基本的な用語を理解している。 ・インターネットの仕組みが理解できている。 ・自宅や学校からどのようなルートでインターネットにアクセスしているのか理解している。
No.5	P117～P149	5章 活動して提案する	・ブレインストーミングで意見を出す技能を身につけている。 ・情報を検索する技能を身につけている。 ・プレゼンテーションソフトウェアを活用する技能を身につけている。 ・ルールをポスターにまとめて制作する技能を身につけている。	・情報を構造化して関係性を考えることができる。 ・複数の情報の中から目的に合った選択を判断することができる。 ・情報を可視化してポスターを作成して表現することができる。 ・自分なりのルールを考えることができる。	・発想法を実践しようとしている。 ・目的の情報を検索しようとしている。 ・ポスターを他者と見せ合い、相互評価をする。 ・マイルールのポスターを発表しようとしている。 ・言葉で図形を正確に伝達しようとしている。 ・光による色の表現をしようとしている。 ・データ量を見積もろうとしている。	- 以下の実習項目について、重要なポイントが理解できている。 ・発想法 ・情報検索のコツ ・インタビューの留意点 ・マイルール作成方法 ・言葉で図形を伝達する方法 ・光の三原色 ・データ量の計算 ・ピクトグラムの作成
No.6	P150～P189	巻末	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。	- 以下の項目について、重要なポイントが理解できている。 ・文書処理ソフトウェア ・表計算ソフトウェア ・プレゼンテーションソフトウェア ・問題解決のツール ・電子メール ・色彩 ・文字 ・情報に関連する法律 ・ファイル形式